

西東京市立田無第三中学校建替協議会
検討状況の中間まとめ
(案)

令和 7 年 6 月

目次

1	はじめに	1
2	田無第三中学校の将来像・建替えコンセプト	2
3	田無第三中学校の建替えコンセプトの実現に向けた教育環境について	4
4	今後の対応	8

1 はじめに

西東京市立田無第三中学校（以下「田無第三中学校」という）の校舎は、昭和 36 年に建設され、60 年以上が経過している。「西東京市学校施設個別施設計画（令和 6 年 3 月策定）」において、学校施設の建替時期については、西東京市公共施設等総合管理計画での考え方を踏まえ、法定耐用年数を超えて、建築後概ね 60 年程度で検討を進め、65 年までに建替工事の完了を目指すこととされている。

このため、令和 6 年度に学識経験者、学校関係者、児童・生徒の保護者、地域関係者及び学校長等で構成する西東京市立田無第三中学校建替協議会（以下「建替協議会」という。）を設置し、田無第三中学校の建替えの基本構想・基本計画の策定に向けた検討を重ねてきたところである。

田無第三中学校の建替えについては、西東京市教育計画や西東京市学校施設適正規模・適正配置に関する基本方針との整合を図りつつ、西東京市公共施設等総合管理計画や西東京市公共施設再編計画に基づく西東京市学校施設個別施設計画を踏まえて進められている。

本書は、これまでの建替協議会の中で検討した内容についてまとめたものである。

2 田無第三中学校の将来像・建替えコンセプト

田無第三中学校の建替えに当たり、建替協議会で将来像・建替えコンセプトについて協議を行い、以下の将来像を軸に基本構想・基本計画を進めていくことに決定した。

田無第三中学校の将来像

「～世代がつながる新たな探究と創造の杜～」

また、上記の将来像を実現するため、以下の4項目を建替えコンセプトとした。

建替えコンセプト

1：安全性を兼ね備えた地域に開かれた学校づくり

学校と公共施設を複合化するにあたり、各施設の連続性に配慮したゾーニング、児童・生徒や一般の利用者等に配慮したセキュリティ対策を実施する。また、災害時の避難所としての防災機能を考慮した防犯・防災対策を併せて実施する。

また、多様性を考慮した様々な方が利用できるユニバーサルデザインの施設設計をする。

2：時代のニーズに応じた多様な学びができる学校づくり

タブレット端末を使用した学習など、デジタルを活用した教育の推進に向け、ネットワーク環境などを整備していく。さらには、児童・生徒に対しての「個別最適な学び」、子ども同士や他者との「協働的な学び」を支える柔軟な学習空間の整備に取り組んでいく。

また、体育館やプール等は地域の方の利用を考慮した配置計画とする。

3：同世代や世代間のふれあいを創出する学校づくり

特別支援学級と通常学級の交流を視野に入れた教室配置や、学校や地域のイベントで活用可能な共有スペースを確保し、同世代や世代間の交流をはかる。

そのほかに、学校内の地域利用部分に掲示板や展示スペースを設置し、学校活動の見える化と地域からの情報発信を考慮した施設設計を実施する。

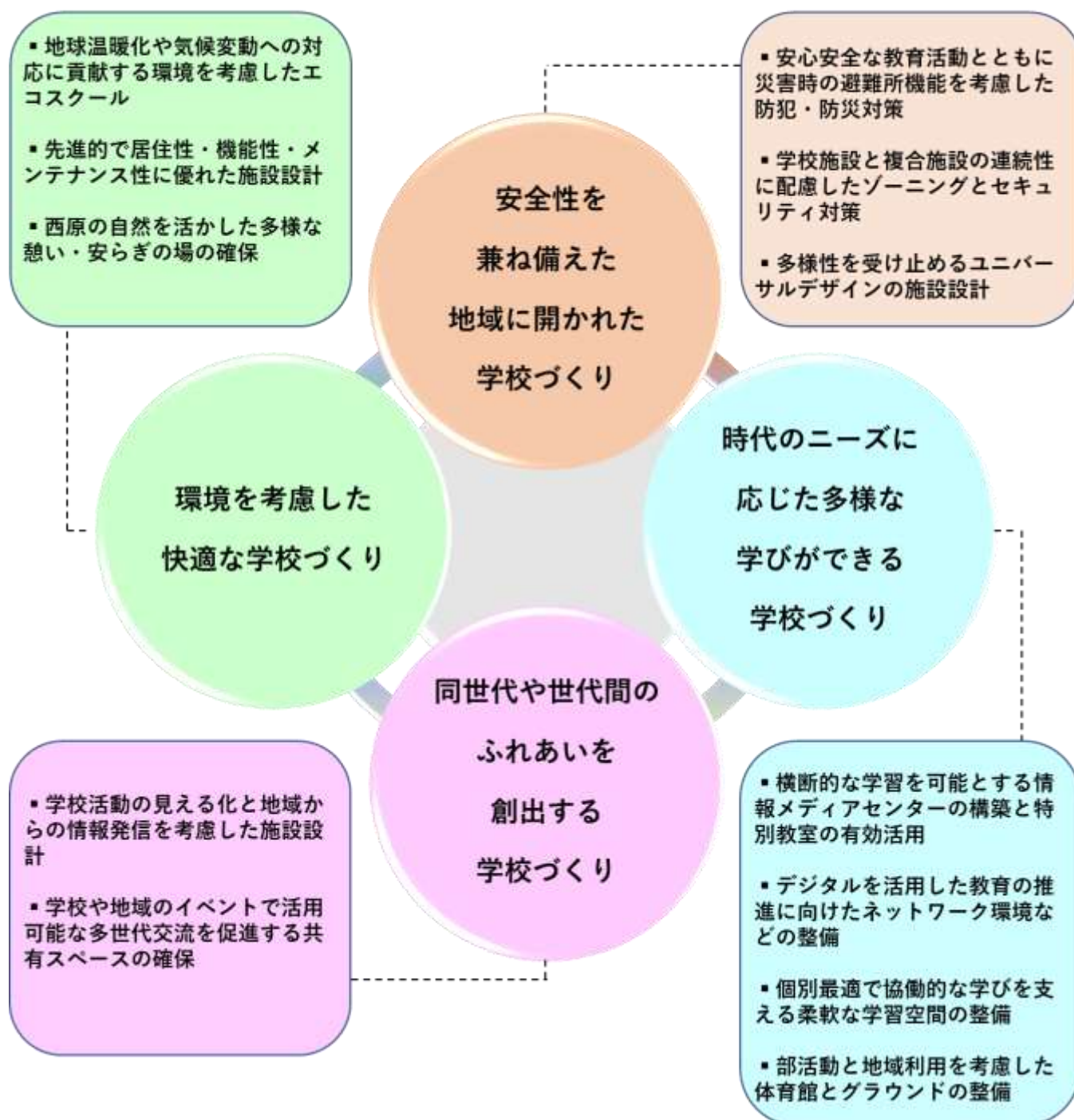
4：環境を考慮した快適な学校づくり

雨水利用、LED照明の導入や断熱化などの省エネルギーの取組や、太陽光発電設備等の再生可能エネルギーを活用し、環境に考慮した施設づくりを目指す。

自然に囲まれた屋外休憩スペースや自然が見える屋内空間を整備し、西原の自然を活かした憩いの場を確保する。

上述した建替えコンセプトを図示したものは次ページのとおりである。

～世代がつながる新たな探究と創造の杜～



3 田無第三中学校の建替えコンセプトの実現に向けた教育環境について

田無第三中学校の建替えコンセプトを実現するために想定される教育環境及び、それに伴う敷地内の施設配置や施設内ゾーニングに関する留意事項を、田無第三中学校の現在の敷地、西原総合教育施設敷地のそれぞれで建替えを行った場合について、まとめた表は以下のとおりである。

建替えコンセプト実現に向け想定される教育環境

建替えコンセプト		対応策	想定される教育環境
①	安全性を兼ね備えた地域に開かれた学校づくり	安心安全な教育活動とともに災害時の避難所機能を考慮した防犯・防災対策	・登下校時の安全対策として安全性の高い通学路を確保 ・電子錠の導入、防犯カメラの設置などによる防犯性の向上 ・堅固な建物整備や避難生活を考慮した規模・設備等の体育館等の整備といった防災対策
		学校施設と複合施設の連続性に配慮したゾーニングとセキュリティ対策	・学校施設と複合施設の同一建物内での整備 ・地域利用部分や複合施設部分から教室への動線の分断措置 ・生徒の安全・安心を確保しつつも、学校と地域とのつながりを感じられる施設内のゾーニングにより、地域とともにある学校づくりを推進し、学校と地域がともに子どもの学びと健やかな成長を支援する体制を整える
		多様性を受け止めるユニバーサルデザインの施設設計	・インクルーシブ教育の充実に向け、段差解消や手すりの設置、バリアフリートイレ、エレベーター、ピクトグラムの採用などユニバーサルデザインの考え方を踏まえた施設設計
②	時代のニーズに応じた多様な学びができる学校づくり	横断的な学習を可能とする情報メディアセンターの構築と特別教室の有効活用	・STEAM教育等の各教科等横断的な学習の推進を視野に、学校図書館、視聴覚室と多目的室で構成される情報メディアセンター(ラーニングコモンズ)を構築 ・情報メディアセンターには、十分な開架・閉架スペースや閲覧・学習スペースを確保、視聴覚機能や検索機能(コンピューター)の充実を図るとともに、校内各所からのアクセス性に配慮したフロア配置とする
		デジタルを活用した教育の推進に向けたネットワーク環境などの整備	・校内におけるWi-Fi環境の整備とモニターなどタブレット端末の有効活用のための周辺機器の設置 ・教科書、ノートとタブレット端末の同時使用が可能となる大きさの機の導入と普通教室の広さの確保
		個別最適で協働的な学びを支える柔軟な学習空間の整備	・習熟度に応じた学習のための少人数教室の整備 ・多様な学習内容・学習形態に対応するための多目的スペースの整備(普通教室の附属スペース) ・誰一人取り残さない学びの保障に向け、個に応じた不登校対策として多様な教育機会を実現するためのスペース確保
		部活動と地域利用を考慮した体育館とグラウンドの整備	・学校2020レガシーを踏まえ、多様な運動機会を創出し、心身の健康づくりに必要な資質・能力の育成に寄与するため、様々なスポーツ、武道や運動が楽しめる設備等が整った体育館や武道場等を整備 ・排水性、土埃や積雪・霜害への物理特性のほか、転倒時の安全性、スパイクシューズ使用等の競技適応性などを考慮したグラウンドの舗装
③	同世代や世代間のふれあいを創出する学校づくり	学年を超えた柔軟な生徒の交流を可能にする教室外空間のデザイン	・休み時間や放課後の交流、生徒の主体的・協働的な自治活動など多様な用途で利用できるコモンズの設置 ・特別支援学級と通常学級との交流を視野に入れた教室配置
		学校活動の見える化と地域からの情報発信を考慮した施設設計	・学校内の地域利用部分における掲示板や展示スペースなどの設置
		学校や地域のイベントで活用可能な多世代交流を促進する共有スペースの確保	・屋内外における学校と地域の共同利用スペースの設置

建替えコンセプト実現に向け想定される教育環境

建替えコンセプト		対応策	想定される教育環境
④	環境を考慮した快適な学校づくり	地球温暖化や気候変動への対応に貢献する環境を考慮したエコスクール	・環境教育での活用も視野に、雨水利用や断熱化などの省エネルギーの取組、太陽光発電設備等の再生可能エネルギーの活用に取り組む ・断熱性や調湿性に優れた木材利用(学校施設の木質化)による温かみと潤いのある空間整備
		先進的で居住性・機能性・メンテナンス性に優れた施設設計	・空調、換気、遮音や採光等に配慮した快適な空間の整備 ・授業間や全校朝会などでの移動における効率的な移動経路に配慮した教室配置
		西原の自然を活かした多様な憩い・安らぎの場の確保	・自然に囲まれた屋外休憩スペースや窓から自然が見える屋内空間の確保

建替えコンセプト実現に向けた留意事項（田無第三中学校敷地）

建替えコンセプト		敷地内の施設配置や施設内のゾーニングに関する留意事項
		田無第三中学校敷地
①	安全性を兼ね備えた地域に開かれた学校づくり	・交通量が少ない敷地北側での正門の設置 ・敷地南側での正門の設置の場合、鎌倉街道の交通量が多いため、敷地内における歩行空間の整備などの対応策を実施
		・防犯性を高めるため、PTA室を除く管理諸室等は1階に配置（主事室・警備室と保健室以外は2階への配置も可） ・普通教室（特別支援学級を含む）を2階以上4階以下に配置 ・屋外各部及び建物内の共用部分等における死角をなくし、周囲からの見通しを確保した上で、視認性を高める
		・避難所としての利用を踏まえ、体育館を1階に配置（2階に配置する場合には、1階に武道場とトイレ・更衣室等を配置） ・避難所の調理場としての活用のため、家庭科室もしくは給食室を1階に配置 ・避難生活と学校活動を両立させるため、動線の重複に配慮して、普通教室（特別支援学級を含む）と体育館を配置
		・地域利用部分や複合施設部分を施設内でまとめて配置した上で、普通教室等への施設利用者の動線をシャッター等により制限
②	時代のニーズに応じた多様な学びができる学校づくり	・機能性向上のため、施設内動線を中心に、学校図書館、視聴覚室と多目的室を一体的に配置
		・一体的な活用のため、普通教室と少人数教室、多目的スペースを学年ごとにまとめて別フロアに配置
		・200mトラックとサッカーコートの確保のため、校庭を敷地内の北側もしくは南側に配置 ・武道場やプールは2階以上での設置も可
		・校庭を北側に配置する場合、改良土や人工芝、ゴムチップ系で舗装
③	同世代や世代間のふれあいを創出する学校づくり	・鎌倉街道に面する建物外観の開放性を考慮した設計
		・屋内外の共有スペースは連続性を考慮して配置
④	環境を考慮した快適な学校づくり	・緑化と外構計画により周辺地域のグリーンインフラとして計画
		・機能性確保のため、学校施設部分は4階以下に配置
		・敷地周辺には自然や公園等が少ないことから、敷地内での緑化などの代替策を実施

建替えコンセプト実現に向けた留意事項（西原総合教育施設敷地）

建替えコンセプト		敷地内の施設配置や施設内のゾーニングに関する留意事項
		西原総合教育施設敷地
①	安全性を兼ね備えた地域に開かれた学校づくり	・歩道の整備状況を踏まえ、なかよし通り沿いに正門を設置
		・防犯性を高めるため、PTA室を除く管理諸室等は1階に配置（主事室・警備室と保健室以外は2階への配置も可） ・普通教室（特別支援学級を含む）を2階以上4階以下に配置 ・屋外各部及び建物内の共用部分等における死角をなくし、周囲からの見通しを確保した上で、視認性を高める ・西原自然公園からの人間、動物の侵入に対する視認性を高める
		・避難所としての利用を踏まえ、体育館を1階に配置（2階に配置する場合には、1階に武道場とトイレ・更衣室等を配置） ・避難所の調理場としての活用のため、家庭科室もしくは給食室を1階に配置 ・避難生活と学校活動を両立させるため、動線の重複に配慮して、普通教室（特別支援学級を含む）と体育館を配置
		・UR敷地（保育園・児童館）に整備する施設とのつながりを考慮して、敷地内の南側で施設整備
		・地域利用部分や複合施設部分を施設内でまとめて配置した上で、普通教室等への施設利用者の動線をシャッター等により制限
		・UR敷地（保育園・児童館）を含めた敷地ごとに学校施設及び複合施設を一体的に整備
②	時代のニーズに応じた多様な学びができる学校づくり	・機能性向上のため、西原総合教育施設敷地に整備する施設内動線を中心に、学校図書館、視聴覚室と多目的室を一体的に配置
		・一体的な活用のため、普通教室と少人数教室、多目的スペースを学年ごとにまとめて別フロアに配置
		・200mトラックとサッカーコートの確保とともに、UR敷地（保育園・児童館）に整備する施設とのつながりを踏まえ、校庭を敷地内の西側に配置 ・武道場やプールは2階以上での設置も可
③	同世代や世代間のふれあいを創出する学校づくり	・敷地外周に面する建物外観の開放性を考慮した設計
		・屋外共有スペースは周囲の緑地・遊歩道との連続性を活かした位置に配置 ・屋内外の共有スペースは連続性を考慮して配置
④	環境を考慮した快適な学校づくり	・周辺の緑地を活かしたパッシブデザインの導入
		・機能性確保のため、学校施設部分は4階以下に配置 ・UR敷地（保育園・児童館）とあわせて学校施設が2つの敷地となるため、連絡通路の設置といった対応策を実施

4 今後の対応

今後、建替えコンセプトの実現に向けた留意事項の整理と併せて施設内における望ましいフロア配置の検討を進めていくが、現時点においては、1階部分に必要な延床面積について、建築可能面積を超過しており、敷地内の施設配置を踏まえた調整が必要となる。

そのため、校舎内のゾーニング等を考慮しつつ、引き続き、施設内のフロア配置及び敷地内の施設配置の両面からの検討を進めていくこととなる。

なお、田無第三中学校敷地については、施設配置を見直すことで、望ましいフロア配置となる可能性があるものの、西原総合教育施設敷地については、敷地内の施設配置が1つのパターンに限られてしまうことから、望ましいフロア配置に近づけることが難しいと考えられる。